

二松学舎大学附属図書館

quarterly report

季報



『増評補圖石頭記』より

目次

- ❖ P2 ドイツ文学—シュティフターの『晩夏』のことなど 押野洋
- ❖ P3 英文学—原語で読む楽しみ 本多峰子
- ❖ P4 書物の森 東洋文庫 會谷佳光
- ❖ P5 大学図書館司書として 小林憲二
- ❖ P6 著作権講習会を受講して 阿部晋一郎
九段図書館だより
- ❖ P7 柏図書館だより／大学資料展示室より
- ❖ P8 図書館だより

No.84

2012(平成24)年
11月

ドイツ文学—シュティフターの『晩夏』のことなど

国際政治経済学部 国際政治経済学科 教授 押野 洋

大学院生の時に研究対象としていた作家はスイスのゴットフリート・ケラー (1819–1890) であったが、最も印象に残った小説といえば、ケラーと同時代の作家、アーダルベルト・シュティフター (1805–1868) の『Nachsommer (晩夏)』 (1857年) であった。ドイツ文学には「教養 (発展) 小説」の伝統があるが、この『晩夏』もその系譜に連なる作品である。教養小説というのは、主人公がその時代の中で種々の体験を重ねながら成長し、調和的な自己形成に至るといった類の小説である。

主人公はハインリヒという自然科学の学徒。ある日、アルプス山麓で嵐に遭い、偶然バラの咲きほこる家に立ち寄る。主のリーザッハ男爵の高い教養とそれを示す事物 (雅致に富む調度、膨大な蔵書、科学研究用の様々な収集物と実験器具類、絵画と彫像) に感銘を受けたハインリヒは、以後数年間、男爵から自然や芸術一般についてレクチャーを受けることになる。男爵との親交を重ねるうちに、自己形成への促しを受け、自然や芸術について成熟した見方を身につけてゆく。かつて中央の高級官吏として活躍したリーザッハだったが、若いとき家庭教師先の娘、マティルデとの悲恋を経験。しかし、老いてはじめて二人は結ばれ、「先立つ夏のなかった人生の晩夏」を享受している。このマティルデの娘がナターリエ。趣味を同じくする彼女とハインリヒは次第に引かれあってゆく。以上がこの小説の内容であるが、青年が理想的な導師に導かれて学を修め、理想的な生涯の伴侶を得るといったなんとでもできすぎた話、しかもごく一部の富裕層にのみ可能な話である。だが、ささやかな自然とつつましい生活 (人生) が存分に描きこまれたこの長編 (翻訳文庫本上・下で約950ページ) の滔滔と流れる大河のようなシュティフターのドイツ語の文体に身を任せるのはなんともしえない心地よさであった。

教養小説という物差しをあてた場合、この小説の弱みは

悪の不在ということになる。登場人物のほぼ全てが善の体現者で、美と調和の高い倫理的世界のみが描かれている。邪悪なるものとのスリリングな対決はおろか、主人公ハインリヒにおいては他者との関わりもほとんどなく、内的葛藤もあまり感じられない。それゆえ、出版当初よりこの小説には「退屈」という批判があったのも事実。しかし、この「悪の不在の退屈さ」についてまったく別の見方を提示したのが、20世紀のドイツの小説家、カフカ風の本を書き「正直な綺譚作者」と称されたハンス・エーリヒ・ノサック (1901–1977) であった。彼はその評論・講演集『文学という弱い立場 (Die schwache Position der Literatur)』 (1967年) で、シュティフターが夾雑物を慎重に排除して構築した静謐な世界を「台風の目」に例えている。ピンセットを慎重に操りながら人工的に作り上げられた奇跡のような善の無風状態。すこしでも座標軸がずればすぐに壊れてしまう脆弱さとその緊張感。

シュティフターの描いた世界の脆弱性の指摘はなるほど見事ではあるが、今ではそのように見えてしまったノサックの内的経験 (第二次世界大戦中のハンブルク空襲) のほうに思いが至る。それまで25年間書きとめておいた日記 (文学的営為を含む) や草稿が全て消失。全てを暴力的に奪い取られてしまった空襲体験とこの強烈な喪失感から、これまでその存在の確実性を疑わなかったものが実は脆い土台の上に築かれていたことに気づく。おそらく昨年3月11日の東日本大震災を直接にそして強烈に体験した方々の中にはノサックのような人生・世界観のコペルニクス的転回を経験した人もいたのではないだろうか。『晩夏』は、平凡な日常生活に潜む脆さ、と同時にそれだからこそ、その素晴らしさ、丁寧な日々の営みの重要性を改めて考えさせてくれる書物である。

英文学—原語で読む楽しみ

国際政治経済学部 国際政治経済学科 教授 本多 峰子

英語を勉強する目的はいろいろあります。就職してビジネスに必要だからとか、世界の人とコミュニケーションをとりたいからとか、アメリカやイギリスやオーストラリアに旅行して、ツアーではなく自分で歩きたいからとか・・・。

私の場合、英語を本気で勉強し始めたのは、英文学を読むためでした。子どもの頃からの愛読書だったナルニア国物語や、『赤毛のアン』シリーズ、その他、たくさん的小説や劇を翻訳ではなく、「実物」で味わいたいと思ったのです。さいわいナルニアやアンシリーズはとても優れた翻訳者に恵まれてとても読みやすくすばらしい日本語になっています。翻訳も私たちに感動を与えてくれます。けれども、瀬田貞二さんの訳したナルニアはやはり、幾分瀬田さんのナルニアですし、村岡花子さんのアンの世界は、やはり、村岡さんの感性を通して見たアンの世界でしょう。そのことは、たとえば、村岡花子さんの訳と、今世紀になって掛川恭子さんが新たに訳した『赤毛のアン』を読み比べてみればすぐ分かるでしょう。どちらも間違いなく、モンゴメリーの『アン』の訳なのですが、小説の空気というか、雰囲気と言うか、微妙な色合いが異なるのです。—どちらが好きかは、読者の好みですし、どちらのほうが優れているとは言えないのですが—それぞれに、「村岡花子さんの」アン、「掛川恭子さんの」アンなのです。

それに、どのような言語もそうですが英語も、音と意味、多くの連想やイメージの連鎖によって成り立っています。ですから、原文を他の言語に移した段階で何かしらのものは必然的に失われるのです。C. S. ルイスのナルニアや、モンゴメリーのアンの世界をじかに知るためにはやはり、原著を読むのが一番よいのです。

私は大学で英米文学を専攻しましたが、2年の時に、英米小説はできるかぎり原語で読むことにしました。それは、自分の英語力がそれらをきちんと読みこなせるだけに向上

したと思ったからではありません。思ったのは、原文で読めば、70パーセントくらいしか分からないかもしれないけれども、翻訳で読めばどうせ、原文の30パーセントくらいは伝わってこないのだから、それなら、本物を読むほうがいい、ということでした。

それは、『不思議の国のアリス』のような作品の場合、特に言えます。この中で、アリスがねずみに身の上話を聞かせてもらうくだりがあります。ねずみが言います。“Mine is a long and a sad tale!”（「私の話は、長くて悲しい物語なのです！」）それを聞いたアリスは、彼の尾を見て、“It is a long tail, certainly,”「確かに長いしっぽね」と言います。「でも、なぜそれが悲しいって言うの?」。原文で読めば、これは、tailとtaleが同じ発音なので、ねずみがtaleと言ったのをアリスがtailと聞いたということが分かりませんが、翻訳ではそれは分かりません。実際、『不思議の国のアリス』は、英語の原文で読むと、言葉遊びやクイズやウィットの宝箱のような、ほとんど翻訳不可能なファンタジーに感じられます。原文で英語を読む楽しみを味わいたい方にはお勧めの一冊だと思います。単語もやさしく、英語の勉強にもなります。

そして、学生の方には、ぜひ英語力をつけて、どんどん、英米の人たちが書いたものを、原文で読んでいただきたいと思います。文章には、書いた人の思想が表れているだけでなく、感情や人柄も表れます。小説には、論文や哲学的命題では表しきれない、人生のいろいろな側面、特に、哲学では回答の出ないいろいろな問題、喜びや悲しみそれに対する人々の生き方が、そのまま表されていると思います。それを翻訳者の解釈を通さず、自分自身で読むことは、日本にいながら、英米の人たちと思想や感情、様々な世界観や問題意識を共有することにつながる、豊かな経験になるでしょう。

書物の森 東洋文庫

東洋文庫 図書部 課長(本学 大学院文学研究科 非常勤講師) 會谷 佳光

本学大学院を修了してから約一年半本学図書館にお世話になり、その後、バイトを経て東洋文庫に奉職し、早5年が過ぎました。この場をお借り致しまして東洋文庫の収蔵資料とミュージアムの紹介をさせていただきます。

東洋文庫は1924年に三菱第3代当主岩崎久弥が創設した東洋学の研究図書館です。蔵書は100万冊に及び、今でも年1万冊増えています。蔵書比率は漢籍・中国書40%、洋書30%、和古書・日本語図書20%、アジア諸言語資料10%です。これらの資料は閲覧室で閲覧いただけます(貴重書の閲覧は事前予約が必要です)。

東洋文庫の蔵書の特徴を申しますと、宋元版は静嘉堂文庫(1892年三菱第2代当主岩崎弥之助創設)に遠く及ばないものの、明清から近現代の歴史系の資料の充実ぶりは世界屈指です。たとえば、甲骨卜辞片635片、石刻拓本3,000部、永楽大典34冊、地方志3,000部、族譜860部、明清人の別集、近代中国研究委員会(1954~2003)や現代中国研究資料室(人間文化研究機構、2007~)収集の近現代中国史に関する資料などがあります。朝鮮本、越南本といった中国周辺諸国で鈔写・刊行された漢籍や、五山版、古活字版等の和刻本漢籍も豊富です。書物ばかりでなく、考古学者梅原末治収集の中国・朝鮮・日本の考古学資料も収蔵しています。東洋文庫というと「漢籍」というイメージが強いかと思いますが、国書も非常に充実しており、たとえば万葉集をはじめとする歌集やその関連書、伊勢物語の古活字本、光悦本、能の謡本、草双紙、古医書、図譜、新井白石の自筆本、保存状態の極めて良好な浮世絵などを多数所蔵しています。

このたび東洋文庫では、新本館の建設を機に、新たにミュージアムをオープンしました。お堅いイメージの専門図書館が、華やかな美術品ではなく、書物を主とした一般向けのミュージアムを作ったことが話題となり、毎日たくさんの方々にご来館いただいております。

国宝・重要文化財・浮世絵・インクナブラ(15世紀の西欧で印刷された最初期の活字印刷物)はこれまで一般公開されておりましたが、厳密な保存管理体制の確立により定期的にミュージアムに展示され、ご覧いただくことができるようになりました。東方見聞録54種や、マ

リーアントワネット旧蔵本と伝えられるイエズス会宣教師のアジア布教報告書など、他所ではちょっと見られないコレクションも常設展示しています。毎日15時スタートのガイドツアーでは、ラオスの民族衣装に身を包んだミュージアムアテンダント(MA)が展示資料のご案内をさせていただきます。

一番の見所は、なんとといってもモリソン書庫です。ロンドンタイムズの北京駐在極東特派員で、後に中華民国総統府の顧問を務めたG.E.モリソンの収集した東洋に関する欧文資料約2万冊が、2階・3階の吹き抜けスペースを囲むようにそびえ立つ三層の書架に整然と排架されております。先日、来館者の方から「まるで書物の森のようですね」とのご感想をいただきました。まさに我が意を得たりです。

最後に企画展のお知らせです。ミュージアムでは11月14日(水)から「もっと北の国から展」と題しまして、知られざる前近代の北方交流の実態や北方諸民族(アイヌ、ニヴフ、ナナイ、サハ、プリヤートなど)の文化的多様性を、所蔵資料をふんだんに使って紹介させていただく予定です。是非一度ご来館ください!

【所在地】

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

【アクセス】

JR・東京メトロ南北線「駒込駅」から徒歩8分
都営地下鉄三田線「千石駅」から徒歩7分
都営バス上58系統・茶51系統「上富士前」から徒歩1分
(<http://www.toyo-bunko.or.jp/>)

【閲覧室】

閲覧時間：9時30分～16時30分
資料請求時間：9時30分～11時50分、13時～16時
休館日：日、祝日、毎月最終日、年末年始
閲覧料金：無料 貸出：不可

【ミュージアム】

休館日：火、年末年始、臨時閉館・休館あり
開館時間：10時～20時(入館は19時30分まで)
入場料：一般880円、65歳以上、780円、
大学生680円、中・高校生580円、
小学生280円、団体割引20%(20名以上)、
障がい者(+付添1名)340円

大学図書館司書として

附属図書館 専門員 小林 憲二

大学図書館司書として四十余年間、二松学舎大学附属図書館に勤め、来年三月に定年を迎えることになり、「季報」編集担当者から、誌上に何か思い出話でもと、得難い要請を戴きました。（「季報」創刊時—昭和五十二年—の初代編集者を担当しましたので、殊更感慨深いものがあります）

図書館生活を振り返ってみますと、図書館を利用してくれる学生は、毎年入学・卒業で顔触れは入れ替わっていますが、真摯に学習・研究に取り組む姿は不変であり、開館時から閉館時まで、図書館に籠って勉学に励む学生を見るにつけ、図書館員として少しでも、これらの利用者のお役に立ちたいと願う日々の繰り返しでした。

勤務始めの昭和四十五年当時、図書館は、館というより室の時代でした。PCで資料検索を行う、今の利用者には想像できないでしょうが、資料は、目録カード（著者名目録・書名目録・分類目録等）で検索していました。カードを一枚一枚括って資料を探す方法です。

新人館員として、先輩の指導を受け、今でも覚えている事は、図書館員は肉体労働者であれという事でした。図書運搬から、配架作業、棚移動と称して、しょっちゅう資料を移動させていました。又、時間が取れば、書庫に入り、所蔵資料の書名を覚えること、八万冊の書名位、毎日睨んでいれば、自然に如何いう書名の本が、どの棚の右から何番目にあるかは自然に頭に入るものだ、というはなはだ乱暴な館員教育でしたが、この方法は後々役に立ちました。情報を広く浅くでも良いから取り込み、教員とは違った面からの、利用者サポートが出来ないと、常に気をつけました。さらに、利用者からレファレンスを受けた場合、自館資料で足りないなら、他館資料を含めた今現在、提供出来る最善の回答を示せ、等々を教えられました。自分が日常の業務の中で、研鑽を積み積むほど、利用者に還元する事ができる。奉仕するという大切さを痛感しました。

職場でも家でも、好きな本に囲まれた生活でした。

図書館司書として長い間の習い性でしょうか、いまでも他の図書館、書店等の棚で、全集がバラバラに並んでいるとか、図書が横倒しになって居たりすると、つい棚卸しをしてしまいたい衝動に駆られる事があります。

那智佐伝元舎長の旧蔵書「惇齋文庫」を戴に、下総中山の先生亡き書齋に伺った事、加藤常賢元学長から、本を持って来るように言われ、出納に時間がかかり、長時間カウンターに待たせて、冷や汗をかいた事、館長室での橋川時雄先生と石川梅次郎先生の会話を立ち聞きして、話題が面白く立ち去り難かった事、濱隆一郎先生の夏目漱石評を聞いた時の驚き等、往時茫茫です。

ここで良い機会ですので、本学図書館の変遷を記してみます。図書館業務の喜びも、辛かったことも、見守っていてくれた、其々の時代の我が舞台です。

・ 附属図書館（九段）

昭和四十一年五月開館（五階建新校舎二階へ移転）

昭和五十三年五月開館（百周年第一記念館二階・

三階へ移転）

平成十四年四月～平成十六年一月（南校舎図書館へ移転—九段校舎建替えのため、附属沼南高等学校を借用。）

平成十六年四月開館（十三階建新校舎地下一階・地下二階へ移転）

・ 附属図書館（柏）

昭和五十七年四月開館（沼南校舎開設 一号館二階）

平成五年四月開館（五号館二階・三階へ移転）

大学の益々の発展を祈念いたします。

最後に「二松学舎大学附属図書館は永久に不滅です」のエールを送ります。



著作権講習会を受講して

図書館スタッフ 阿部晋一郎

8月8日から10日という猛暑の中、冷房の直撃を蒙りつつ、東京大学で「平成24年度図書館等職員著作権実務講習会」を受講する機会に恵まれました。この講習会を通して感じたことを少し述べさせていただきます。

講習会は、著作物とデータの区別など基本的なことから講義をしていただきました。著作権に詳しくない私にとって大変ありがたかったです。著作したものに感情が込められているものが著作物であることを教わりました。例えば、図書館で図書を探すときに請求記号をメモしたものは著作物ではありません。しかし、友人に何か伝言をししたりするメモ書きは、「友人に何かを伝えたい」という感情があるので、著作物にあたります。もちろん本やCDも著作物です。

著作権法というのは、こうした著作物や著作者を保護するための法律です。しかし、それ以上に私が気になったのは、この法律がこうした保護をした上で文化の発展に寄与することを目的としているとその条文に記されていることでした。著作権法には保護期間が設けられています。映画

は70年ですが、その他の書物などは50年が保護期間となります。この期間中には、本来なら無断で著作物を複写することはできません。ただし、研究目的のためならばということで特例が認められているのです。

著作権法という法律は、文化の発展に寄与することを目的とする法律であると述べました。研究のために特例が認められているのは、研究することもまた文化の発展に寄与することだからだと思います。著作権法は罰を与えるためにあるのではなく、文化をより発展させるためにあるので、著作者に敬意を表しつつ複写などもするべきなのだと感じました。

3日間著作権講習会を受講しましたが、著作権の複雑さを感じさせられました。また、法律は改訂されるものでもあります。自己研鑽が必要であり、努力していかなければならないと思いました。最後に文化庁の著作権のwebページを記しておきます。詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

<http://www.bunka.go.jp/chosakuken/index.html>

九段図書館だより

☆ロンドンオリンピック特集

7月14日より、ロンドンオリンピックの開催を記念し、九段図書館で「ロンドンオリンピック特集」の展示が行われました。

オリンピックに関する本や、スポーツ選手の著書などを特集し、ロンドンについての書籍も紹介しました。

多くの貸出があり、大変盛況のうちに幕を閉じました。

現在は「Mystery フェア」の展示が行われています。



柏図書館だより

柏市立図書館・市内大学図書館合同企画展



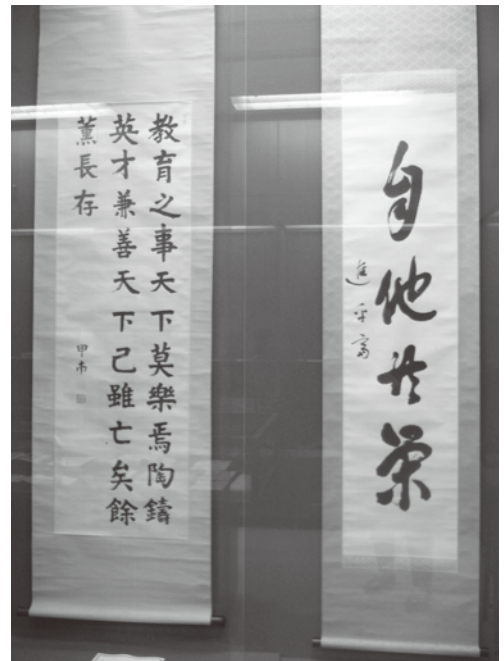
左右:嘉納治五郎展示 中央:カバディ展示

毎年、柏市立図書館と市内4大学では、合同で企画展・講演等を開催しております。今年のテーマは「スポーツと健康」です。

本学柏図書館で10月15日から11月17日まで「二松學舎とスポーツの意外な繋がり」と題して、卒業生であり講道館柔道を興し、日本に於けるスポーツの道を開いた嘉納治五郎の著作本、関連本を紹介しております。

また、日本ではあまり馴染みがないスポーツ「カバディ」。国内の大学カバディチームが最初に結成されたのが二松学舎大学です。その普及に貢献されている金子茂教授の著作本の展示やカバディのルールを判りやすく説明しております。

同時に法人資料室では「二松學舎大学に繋がる人々」をテーマに嘉納治五郎をはじめとして夏目漱石、吉田茂の資料を展示しております。



大学資料展示室より

9月26日から10月26日まで企画展「金田一耕助の足跡—そのルーツから最期まで—」が行われました。複数の新聞社の取材などもあり、多くの方に資料を見ていただくことができました。

今月は11月・12月の企画展「論語と日本人(仮)」が行われる予定です。

日程等は、大学のホームページにお知らせが載りますので、そちらをご覧ください。

図書館だより

図書館カレンダー

九段図書館

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

8:40~21:50
9:00~16:50
閉館

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8:40~21:50
9:00~16:50
閉館

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8:40~21:50
9:00~16:50
8:40~16:20
閉館

2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

9:00~16:50
9:00~19:00
閉館

柏図書館

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

9:15~18:50
9:15~16:00
閉館

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9:15~18:00
9:15~16:00
閉館

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9:15~18:00
9:15~16:00
閉館

2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

9:15~16:00
閉館

※11月23日(金)は、授業開講のため開館(九段、柏)。1月17日(木)はセンター試験準備のため、16:20閉館(九段)。
2月8日、15日、22日の金曜日はレイトデー(九段)。2月14日(木)は入試のため閉館(九段)。

開館日・開館時間は変更することがございます。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

長期貸出のお知らせ

	期間	対象者
卒論貸出	11月 1日(木)~12月11日(火)	学部4年生
修論貸出	11月 1日(木)~1月21日(月)	文学研究科博士前期課程2年生/国際政治経済学研究科修士2年生
冬期貸出	12月13日(木)~1月10日(木)	修論貸出対象者を除く全利用者

編集後記

表紙の写真は中国文学のいわゆる『紅樓夢』の挿絵です。
今号では西洋の文学についてのご寄稿もいただきましたが、洋の東西を問わず秋の夜長に読書をしていてもいいかも知れません。
どうやら今号も無事発行の運びとなりました。ご寄稿いただいた皆様に感謝致します。(編集子)

二松学舎大学附属図書館
季報
第84号

発行日 平成24(2012)年11月1日
発行 二松学舎大学附属図書館
九段図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町16-6
電話:03-3263-6364
柏図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590
電話:04-7191-8758
印刷所 株式会社 サンセイ
電話:03-5614-2515